

# 被害写真の撮り方

## 良い例

### 〈降雨による被害〉

- ❶ こう水のと看、このような写真は被災時の状況を把握するのに大変参考になる。しかし、撮影者の人身の危険もあるので十分な注意を要する。



浸水状況



被災後状況

② 浸水の状況を写しておく。これらの写真は学校の職員が刻々の状況の変化に応じ適切な機会に写す必要がある。



浸水状況（玄関）



被災後状況

③ 浸水深さの数値が分かるように写す。



校舎外浸水位置（1,740 mm）



校舎外浸水位置（接写）（1,740 mm）



体育館内浸水状況 (850 mm)



体育館内浸水状況 (接写) (850 mm)

④泥堆積厚さの数値が分かるように写す。



屋外運動場泥堆積 (200 mm)



屋外運動場泥堆積 (接写) (200 mm)

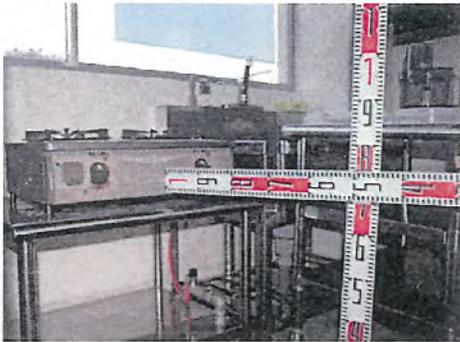
⑤ 浸水の深さ、被害品目を分かりやすく写す。(設備)



厨房の浸水 (冷蔵庫 (厨房))



冷蔵庫 (厨房用)



ガスレンジ/厨房浸水 (770 m/m)

## 〈土地被害〉

- 事業計画書の積算数量と一致させる必要があります。
- 勾配等の数量はポール等を使用し、被害状況を的確に説明できるよう考慮する必要があります。
- 草が茂っていて被災範囲が不明にならないよう、写真撮影前に検討を行い、必要に応じて草刈を行うことも必要となります。
- 数枚の写真を重ね合わせ証明することができます。

被害全景



- 被災範囲の土の体積がわかるように全景と横断をスケールと共に撮影する。

全景写真



起点



終点



横断 NO.0



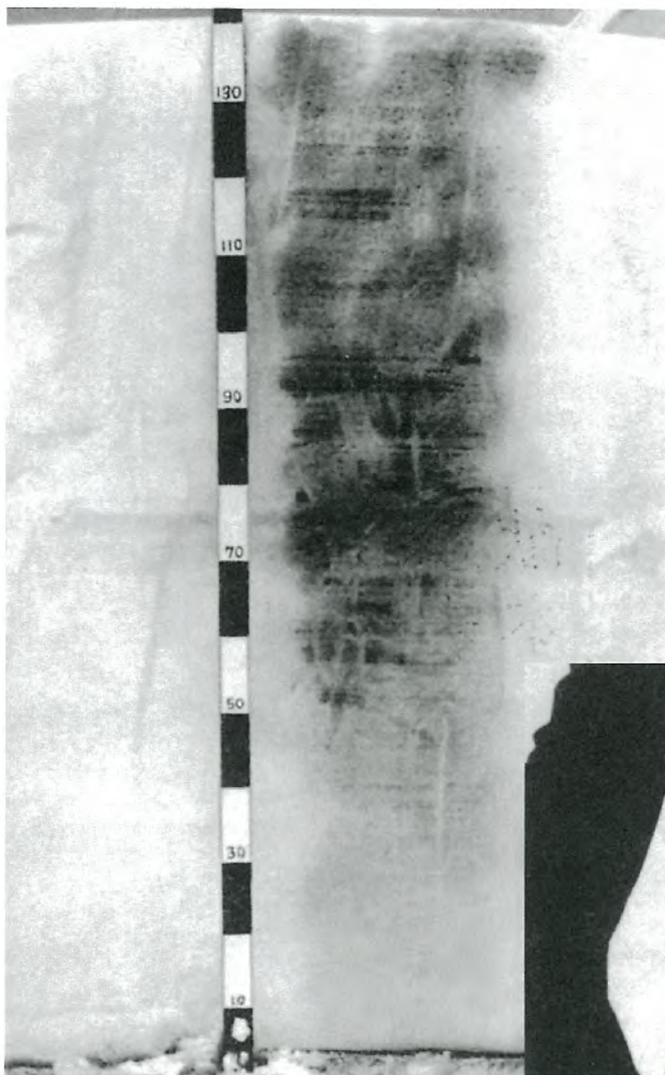
横断+3.0



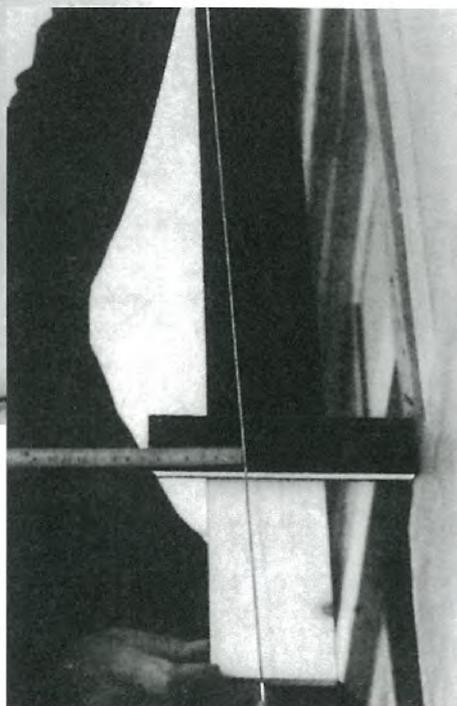
横断+7.0



## 〈雪による被害〉

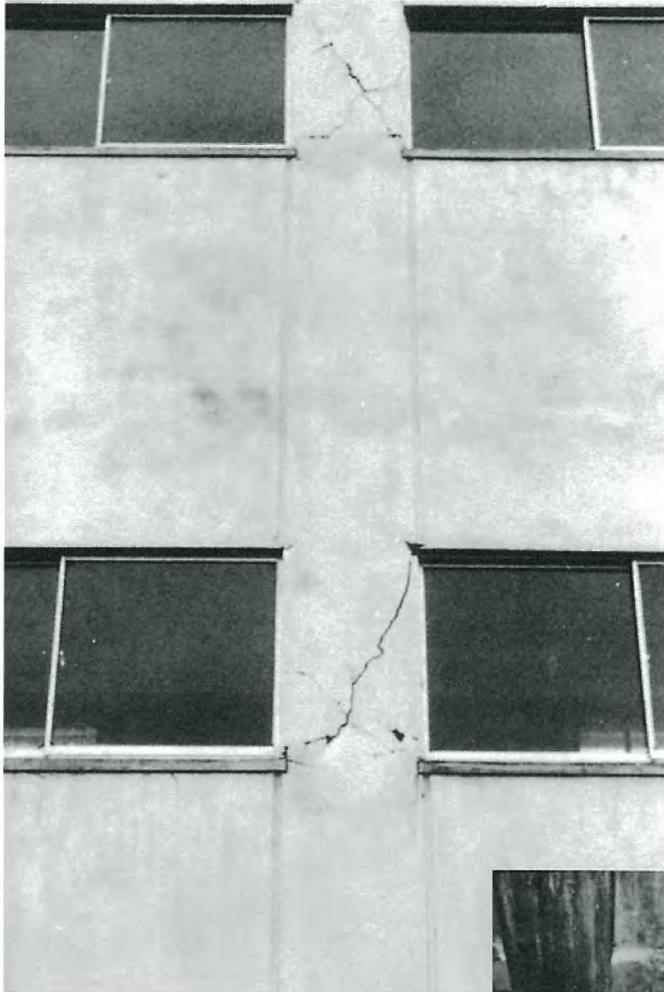


①雪害の場合は、個々の被害写真のほかに、屋上の積雪量を写真で立証する。できる限り積雪の層も分かるように考慮する必要がある。



②建物が傾斜し、引き起こしまたは補強等を必要とする場合には、下げ振り等を用いて傾斜の状態を明らかにする。

## 〈地震による被害〉



①地震により鉄筋コンクリート造建物の柱にせん断亀裂（斜めに入った亀裂）を生じた例である。このような亀裂は微少なものであっても構造耐力上の検討を必要とする場合があるので見落しがないように注意する。

②地震または強風等により建物に歪みを生じたときは、床板等を剥ぎ、仕口のずれ等を調べ巻尺を用いて歪みの状態を表わす。

